

翔

TOBU

NO. 59

1986年10月

百万石蝶談会

目次

：短報	5	1
松井正人：ホシチャバネセセリを採幼		2
松井正人：カラスシジミの幼虫色に関する1資料		3
松井正人：クリの花からミヤマカラスシジミを採集		3
井村正行：石川県のカミキリムシ科(その4)		4
松井正人：オオチャイロハナムグリに手を汚す		7
編集部：会員の動き・しゃばの動き		8
編集部：例会の記録(1986年8月1日の記録)		12

0						0
	短報	5				
オニクワガタ						
1986年8月28日	白峰村別当出合	1♀	倒木	田中秀夫		
1986年9月5日	白峰村風嵐	1♂	燈火	山本直樹		
1986年9月13日	白峰村市の瀬	1♂1♀	燈火	山本直樹		
ヒゲナガカミキリ						
1986年9月5日	白峰村白峰	1♂	燈火	嵯峨井淳郎		
1986年9月21日	白峰村風嵐	1♂	燈火	中西重雄		
オオセンチコガネ						
1986年9月15日	津幡町木の窪	4exs	人糞	井村正行		
1986年9月21日	津幡町三国山	1ex	人糞	中西重雄		
1986年9月28日	押水町宝達山	27exs	人糞	中西重雄		
0						0

小松市から山中町にかけて棲息が確認されているホシチャバネセセリの幼虫を採集したので報告する。これまで本種の成虫は6月上旬から9月上旬にかけて確認されていたが、幼虫は未発見のままだった。図鑑によれば「本種の幼虫は原則的にはオオアブラススキのみを食べ、他の多くのアカセセリ亜科の幼虫と異なり、葉を裏側に巻き、葉表を外側にして造巢する」となっていたことから、昨年(1985年)1年間は、オオアブラススキの見分けがつかないまま、とりあえず「ススキに似た植物で、葉を裏側に巻いたセセリの巢」を捜していたが、この方法では発見出来なかった。今年になってようやくオオアブラススキの見分け方がわかり、やっとの事で本種を採幼することが出来た。ところが、6月8日の調査の時にはこのオオアブラススキの花穂がすでに伸びており、植物図鑑の記述と違っていたため検索し直したところ、オオアブラススキではなく同じ属のミヤマアブラススキだった。

ミヤマアブラススキはススキと言うよりはササのイメージが強く、茎に白い粉をふく所などもササに似ている。明るい樹下でミヤマアブラススキを丹念に眺めていると、葉を裏側に巻いた巢や、葉脈部分が少し飛び出している食痕が見付かった。こういったものが見付かると、大体7~8割がた幼虫は何処かの葉裏に潜んでいた。1株に2頭付いている事もあったが、ほとんどの場合が1頭だった。6月8日の幼虫は丸まった巢の中に潜んでいたが、6月14日の幼虫は蛹化が近かったせいか、食痕の無い葉裏に止まり、葉は丸めたりせずに軽く屋根型に曲げている程度で、上から眺めていてもなかなか見付からず、下から見上げることによって見付けることができた。

最後になりましたがこの幼虫採集に際し、食草の見分け方等で近藤征四郎氏にはずいぶん御世話になりました。ここに明記して厚くお礼申し上げます。

山中町鶴ヶ滝	1986年6月8日	終令2 exs	松井正人
小松市馬場	1986年6月8日	終令1 ex 3 令1 ex	松井正人
小松市金平	1986年6月14日	前蛹7 exs	松井正人
小松市江指	1986年6月14日	終令2 exs	松井正人






いずれもミヤマアブラススキにて採幼。

- 参考文獻
- 矢田新平(1963)小松加賀江沼の蝶、小松市科学研究所報第35号
 - 納谷善雄(1971)加賀江沼地区の蝶について
 - 中山佐一郎(1981)小松市とその周辺のチョウについて、
小松市立博物館研究紀要(第18集)P. 1
 - 中山佐一郎(1984)小松市とその周辺のチョウについて(第2報)、
小松市立博物館研究紀要(第21集)P. 26
 - 福田晴夫・他(1984)原色日本蝶類生態図鑑(Ⅳ)保育社 p. 220
 - 北村二郎・他(1983)原色日本植物図鑑(Ⅲ)保育社 p. 386

カラスシジミの幼虫色に関する1資料

松井 正人

石川県産43頭を含む57頭のカラスシジミを飼育したところ、初令幼虫の体色はどれもこれも似たようなものだったが、令が進むにつれ体色に違いが目立ち始め、終令幼虫に至ってもエンジの強い個体から、全く緑色の個体まで連続して見られた。そこで終令幼虫を体色によって5型に分類し、表を作ってみた。全く緑色の個体を0型とし、最もエンジが強い個体を4型とした。

	0型	1型	2型	3型	4型	計
個体の模様						
石川県	14	12	10	6	1	43
富山県		2		2		4
岩手県	6	3	1			10
計	20	17	11	8	1	57

石川県産はオヒョウより採卵し、富山、岩手県産はハルニレより採卵したもので、総て金沢市においてハルニレで飼育したものである。



0型個体



4型個体

クリの花からミヤマカラスシジミを採集

松井 正人

尾口村目附谷のクリ林にて、クリの花をたたいていた時に飛び出した本種を採集した。午前9時半頃よりクリの花をたたき回り、何も飛び出さずくさっていたが、10時頃林縁の高さ2m位のクリの花をたたいたところ、何か茶色っぽい蝶が飛び出しすぐ横のスギの葉に止まった。しかし、何処に止まったかはっきりしなかったため軽くスギをたたいたところ、それはちょっと飛んでまた同じような所に止まった。この時翅を閉じていたので、後翅裏面の模様から初めて本種だと判った。飛び方は活発でなく、寝ぼけたゼフの様だった。県内における本種成虫の記録は甚だ乏しいので報告した。

ミヤマカラスシジミ 1♂ 1986年7月27日 尾口村目附谷 松井正人

石川県のカミキリムシ科(その4)

井村正行

71. ニョウホウホソハナカミキリ Parastrangalis lesnei PIC
白山のブナ帯に分布し、シュウマの花より採集した。個体数は大変少ないように思われる。
1984年 7月15日 1♀ 白山中宮温泉 井村正行
72. ホソハナカミキリ Parastrangalis hosohana OHBAYASHI
本県に分布していると言われているが、筆者はまだ確認していない。ホストと思われるサワフタギは、低山からブナ帯まで広く普通に見られる植物であるから、6月から7月に各種の花に来るホソハナカミキリ類を注意して見てもらいたい。
73. タテジマホソハナカミキリ Strangalis skikokensis MATSUSHITA
白山山麓のブナ帯で7月から8月にかけて各種花より採集される。次種に似るが、それよりも個体数は大変少ない。
1973年 8月 4日 1ex 白山釈迦林道 入場 登
1980年 7月13日 1♂ 白山釈迦林道 野中 勝
74. ニンフホソハナカミキリ Strangalis nymphula BATES
低山から亜高山帯まで広く分布し、6月から8月にかけて各種花より採集される。個体数も多い。
1984年 7月15日 4♂3♀ 白山中宮温泉 井村正行
1986年 6月24日 1♂ 金沢市国見山 井村正行
75. ミヤマホソハナカミキリ Idiostrangalis contracta BATES
低山帯から山地帯に広く分布し、6月から8月にかけて、各種花より採集される。個体数はやや少ない。
1974年 7月 7日 1♂ 白山大杉谷林道 入場 登
1979年 6月24日 1♀ 白山中宮温泉 野中 勝
1979年 8月19日 1♂ 白山丸石谷 野中 勝
76. ベニバハナカミキリ Paranaspia anaspoides BATES
白山のブナ帯で2頭採集されている以外は、記録のない大変稀な種。飛翔中の個体とノリウツギの花に来たものが、各1頭ずつ採集されている。出現期は7月から8月。
1972年 8月 2日 1♂ 白山 入場 登
77. キヌツヤハナカミキリ Corenys sericata BATES
白山山麓のブナ帯に分布し、ノリウツギ、シンウドなどの花や、ブナの立枯木に来たものなどが、採集されている。出現期は7月から8月で個体数も少なくない。
1980年 8月 3日 1♂1♀ 白山釈迦林道 井村正行
1980年 8月10日 2♂ 白山大杉谷林道 井村正行

78. オオホソコバナカミキリ *Necydalis solida* BATES

白山山麓のブナ帯で6月から8月にかけてブナの立枯に集まり、♀はそれに産卵していることもある。ブナの立枯木をていねいに見て回ると、個体数も少なくない。1例だけ燈火に飛来したものが、採集されている。

1979年 7月29日 1♂ 白山大杉谷林道 井村正行
1980年 8月 3日 1♂2♀ 白山釈迦林道 井村正行

79. クロホソコバナカミキリ *Necydalis harmandi* PIC

白山のブナ帯でブナの立枯木に飛来した1♀が採集されているにすぎず、本県では非常に稀な種と思われる。

1977年 8月21日 1♀ 白山釈迦林道 入場 登

カミキリ亜科 Cerambycinae

80. アオスジカミキリ *Xystrocera globosa* OLIVIER

平地から低山帯に広く分布している。ネムの生えている場所であれば、それらの衰弱木や枯木の部分に、本種がかなりの高率で加害している。そのような所で6月から7月に夜間ネムの枝や幹に本種が止まっているのが見られる。個体数もけっして少なくなく、燈火にも飛来する。海岸のニセアカシアも加害しているが、やはりネムの方をより好むように思われる。本県での越冬態は、前蛹及び終令幼虫。

1979年 6月20日 2♂3♀ 金沢市五郎島 井村正行
1986年 6月29日 1♀ 金沢市俵 井村正行

81. ベーツヤサカミキリ *Leptoxenus ibidiiformis* BATES

本県では加賀市吉崎、加賀市鹿島の森周辺でのみ採集されている。冬期の材採集によって、タブの枯枝より材内成虫で得られているため、成虫の活動期に関する詳細は不明であるが、5月上旬ではまだ現地で材内にとどまっていた。これより5月中旬から6月に発生するものと思われる。越冬態は総て新成虫で、材で採集するかぎり個体数は多い。

1979年 5月 6日 3♂1♀(羽化) 加賀市吉崎 井村正行

82. ミヤマカミキリ *Massicus raddei* BLESSIG

平地からブナ帯下部まで広く部分し、6月から8月にアベマキ、カシ類などの生木および燈火などに集まる。大型のカミキリではあるが、個体数は多い。

1976年 8月18日 1♀ 金沢市粟田 橋場 清
1981年 7月10日 1♂ 金沢市医王山 井村正行

83. キイロミヤマカミキリ *Margites fulvidus* PASCOE

金沢城跡から数例の記録があるが、1985年6月に入場登によって加賀市加佐岬のスタジイの衰弱木より1♂1♀採集された。金沢城跡では、燈火に飛来したものと、アラカシの衰弱木にいたものが採集されている。出現期は4月下旬から7月。

1959年 4月28日 1ex 金沢城跡 松枝 章
1969年 5月27日 1♀ 金沢城跡 澤田 博

84. キマダラヤマカミキリ Aeolesthes chrysothrix BATES
 平地から低山帯に分布し、6月から7月にかけて夜間アバマキ等の樹幹や、
 燈火に飛来したものが採集されている。個体数は多くない。

1958年 7月27日	1ex	金沢市尾山神社	堀 和夫
1971年 6月10日	1♂	金沢城跡	澤田 博

85. マルクビケマダラカミキリ Hesperophanes campestris FALDERMANN
 金沢市内の平地で燈火に飛来したものが採集されているが、個体数は少ない
 ようだ。5月から7月に出現する。

1974年 7月19日	1♀	松任市一塚	入場 登
1978年 5月25日	1♂	金沢市大友	井村正行

86. トビイロカミキリ Allotraeus sphaerioninus BATES
 平地から低山帯に分布し、金沢市倉ヶ岳ではクリの花より採集されている。
 輪島市曾々木ではタブの枯木より本種を羽化させている。その時の越冬態は
 総て蛹だった。6月から7月に発生し、個体数はやや少ないようだ。

1979年 5月19日	2♂2♀(羽脱)	輪島市曾々木	井村正行
1986年 6月24日	1♂	金沢市国見山	井村正行

87. ヨツボシカミキリ Stenygrinum quadrinotatum BATES
 低山帯のクリの花や燈火に飛来したものが採集されている。6月から7月
 に出現するが個体数は多くない。

1961年 6月25日	1ex	金沢市寺町	松枝 章
1978年 6月10日	1ex	金沢市諸江	入場 登

88. ヨコヤマヒメカミキリ Ceresium holophaeum BATES
 平地から低山帯で広く採集されている。燈火およびタブ類の枯葉のついた
 枯枝のビーティングなどで得られる。タブ類の材採集で羽化するものは、5月
 下旬から8月までとかなり羽化時期にバラツキがある。越冬態の多くは終令
 幼虫で若令から中令も広くみられる。

1979年 7月29日	2♂1♀(羽脱)	加賀市吉崎	井村正行
-------------	----------	-------	------

- ※ トゲヒゲトビイロカミキリ Allotraeus rufescens PIC
 本種の記録が本県にあるようだが、筆者は個体の確認もできず、分布の可
 能性も薄いように思われる。

- ※ テツイロヒメカミキリ Ceresium sinicum WHITE
 本種の記録も本県にあるようだが、これまで筆者の確認したものはすべて
 ヨコヤマヒメであり、分布の可能性も薄いと思われる。

オオチャイロハナムグリに手を汚す

松井 正人

雨の中、ブナの大木に向かって3人の男が何かをしている。1人は木に登り、1人はツルハシを振るい、1人はしゃがみこんでいる。木には大きなウロがあり、木の上の男はウロの中を掻き回し、ツルハシ男はウロに向かってツルハシを振るい、2人ともウロの中身を外へ出している。そしてしゃがみこんでいる男は、その中身を棒キレでいじくっている。いったいこの男達は何をしているのだろうか。

「落とすぞお」と井村氏が叫ぶと、腐葉土みたいな黒いドロがドドッと落ちてきた。僕は頭にドロをいっぱいかぶりながら、棒でもって盛んにドロをさばいている。さっきマユのカケラが出てきたので期待に胸が高鳴り、さばく手にも力が入っている。とその時、「でたあ」と中西氏の声。のぞき込むとドロのかたまりのような物だが、明らかにマユとわかる物がそこにあった。壊れるといけないので大切に隅の方へ避けていると、「また出たあ」と中西氏。2つともツルハシで壊した枯れた部分の裏側から出て来たらしい。こうなってくると棒キレなんかじゃまだるっこしくて、軍手をはめ、手でドロをさばき始めた。ところが中西氏ときたら、最初からドロだらけになりながら素手でウロの中のドロを掻き出している。さばくにつれ、ドロの中からはオオチャイロの前胸背やら前翅やらがバラバラになって出てきたが、それ以上マユは出てこなかった。中西氏があきらめて別のウロを捜しに行ったところで、やっと僕の番が回ってきた。ワクワクしながらウロの中へ手をつっ込んでみると、突然背後から「まだ幼虫だ」と井村氏の声。振り返るといつの間にも木を降りたのか、井村氏がこっそりとマユを割って中をのぞいていた。中西氏と共に井村氏をたしなめながらも、ウロの中からモジャモジャの細根のかたまりをひっぱりだすと、一緒になって幼虫も転がり出てきた。よく見ると、マユが壊れて幼虫がこぼれ出たものだった。「軍手じゃマユのコロコロした感じがつかめない」と中西氏に言われ、しぶしぶ軍手をぬいで素手をつっ込みまさとすると、何やらコロコロしたものが手に触れた。「これだ」と思って取り出すと立派なマユで、今までで一番大きいマユのようだった。それからはドロを掻き出しながら下へ下へと手をつっ込み、肩までスッポリと入れていると、何やら腕がチクチクと痛いような気がした。手を出してみると、腕じゅうにアリがたかり、食い付いていた。たぶんアリの巣でも壊したのだろう。ここで井村氏とタッチ。井村氏は別の所を掘りだしたものの、何も出てこないのですぐにあきらめてしまった。僕がまた井村氏の後を掘りだすと、すぐに終令幼虫が1匹出てきたが、掘り進むとまたアリが出てきたので、もう止めることにした。最後に掻き出したドロをまたウロの中へ戻し、オオチャイロがまたこのウロに産卵してくれるようお祈りをした。

結局このウロ1つから、オオチャイロハナムグリのマユ4コ、終令1コと成虫1匹分の残骸を掘り出したが、その他の物は何も出て来なかった。

(1986年5月11日吉野谷村中宮温泉にて井村正行、中西重雄、松井正人の行動)

会員の動き・しゃばの動き

★7月17日高平氏、1ヶ月ぶりに休暇がとれ、のんびり白骨温泉へでも出掛けようかと思っていたが、大雨にたたられ大ショック。

★金子氏、7月18日から3日間瀬戸内方面を徘徊。昼、岡山でカバフキシタバを採っていたかと思えば、夜は小豆島の寒霞溪でナマリキシタバを採ったりしている。カバフは1日1頭、3日で3頭とか言っていたが、よく動くのには関心します。いやまったくタフです。お年を感じさせません。

★7月下旬中藤氏、単身高爪山へ。おびたしい数のヒョウモンが飛び回る中、ついに登山口の駐車場にて黒い貴婦人メスグロヒョウモンを手中に収めたいらしい。ついでに酒見でジャコウアゲハも採ったらしい。

★7月21日山岸氏、1ヶ月間の北海道旅行へ出発。キンキラオサムシをたくさん採るとかで中西宅からトラップ液をごっそり持っていったらしいが、実の所オサムシそっちのけで、ギャルトラップをかけているともっぱらの噂。

★7月27日野村氏、板尾のミヤマカラスポイントへ。ところがなんと吸水ポイントはコンクリート舗装になっていたらしく、がっくり落ち込んでいた。

★7月27日井村氏、スミイロクビボソハナを採りに木曾御岳山へ。非常に稀というこのカミキリ、必死の思いで頑張ったかいあってか、どうにか1♂採集したらしい。

★7月27日田辺氏、チョウチョウの招きにあつて内灘まつりの水着撮影会へ。上位入賞者には町長賞が与えられるんだってさ。

★7月27日竹谷氏、吉野谷村のエンテイの上でにぎりめしを食べていたところ、オヒョウの木の上に何やらゼフみたいなの、カラスシジミみたいなの蝶を目撃。思わず知らず手をにぎりしめたが、あっという間に風に流されたらしい。

★嵯峨井氏、8月から穴水へ転勤という話になっていたが、フタをあけると行かなくても良い事になっていた。独身気分と奥能登の虫採りに励めると張り切っていた氏だったが、なぜか顔はほころんでいた。

★8月初め中藤氏、市の瀬より徒歩にて釈迦道へ。ダンブがバンバン走り採集どころでは無かったらしいが、それでもアサギマダラが1頭採れたとか。

★澤田氏、8月1日から5日間某地へ家族旅行。家族旅行とは誰かさんをだまくらかすための擬装工作で、実はピカピカオサムシを求めて…。ところが現実はそんなに甘く無く、ピカピカは全然採れなくて、エゾマイマイが採れただけとか。

★8月2、3日山本氏、北アルプス常念岳から白骨温泉へ。出発早々深夜の高速道路でパンクしたらしいが、めげずに予定を敢行。おかげで高山蝶御三家はおろか、俗に言うところの5種に会えたらしい。

★8月9日蝶談会第2回カラオケ採集会を尾口村岩間地内にて開催。快晴で星が瞬き素晴らしい夜だったが、ライトトラップにはいまいちの様だった。蛾屋さんがいないので、ナマリやノコメがきていても分からず、甲虫もたいしたもののは来なかった。参加者は、井村、田中、竹谷、中西(2人)、松井、山本の7人。

★8月10日カラオケグループは、木曾御岳派、大杉谷クワガタ派、丸石谷ゴマ派の3派に分かれ、思い思いの採集地へと向かった。丸石谷ゴマ派5人は車両通行止のため山崎旅館からゴマポイントまで歩いたとかで、ポイントでは竹谷氏がシャッターチャンスに、中西、山本の両氏はネットチャンスに恵まれたらしい。11時半頃にはカライトソウの花穂に止まった雌が、くるくる回りながら産卵位地を探っているのも観察されたらしい。木曾御岳派の井村氏は、途中岐阜県荘川村にてカツラよりツヤハダクワガタの幼虫多数を掘り出したらしい。また御岳山ではテンカラ(天然カラマツ)の宝石とも言われるミドリヒメスギも見付けたらしい。大杉谷クワガタ派の田中氏は、アカアシヤらヒメオオクワを多数採集したらしいが、あまりの多さにゲッソリ。

★8月11日金子氏、アズミキシタバを求めて白馬から松本方面へ採集旅行。

★8月12日諸道家に長男誕生。名前はおやじの1字"秀"を取って、秀吉、秀頼、秀忠のどれかと成ったらしいが、結局画数の良い秀忠(ひでただ)に成った。おやじが言うには「パパ」よりもまず、「ズガタカイ」と言って欲しいらしい。

★とんと音沙汰の無い金平氏、現在県立中央病院の胃腸外科で、盲腸をチョコキチョコキ切ってるらしい。展翅できたえた指先は、軽やかにメスをすべらすらしい。

★8月某日城南亭にて嵯峨井、井沢の2氏が山と積まれた三角紙標本の山分けをしていた。なんでもツイーソーの愛読者セールで安く手に入るからと、しこたま買い込んだらしい。他にも、カブト、クワガタ等がゴロゴロしていた。

★8月14日吉岡氏、真奈美夫人となかよく帰沢。虫の話は全く出ず、ただ「ワープロいらんかあ！シャープのワープロはお買い得だよお！」と二言三言。

★8月14日中西氏、2女鈴奈さんを伴って白山小桜平へ。3泊4日の予定で小桜ヒュッテをベースにのんびり休暇を過ごすらしい。

★8月17日山岸氏、予定より早く北海道採集旅行より帰沢。雨は毎日降るし、トラップかければ恐いおじさんに張り倒されそうになるし、ダニにはたかられるし、安宿に泊まれば体中にボツボツが出るし、ギャルとは言えば、これまたブスッ子ばかり、全く好いところが無い。北海道のギャルはパツとしないね！ギャルはやっぱり沖繩だね！などとぶつくさ言っていた。

★8月17日、丸石谷に3人の男がやってきた。1人はカメラを下げてゴマシジミを狙いに、1人は鶴来からはるばるキベリタテハを狙って、今1人はエルタテハを狙ってバイクに乗ってやってきた小太りの青年だった。

★8月17日松井氏、白山小桜平へ。やっぱりのんびりと高原の休暇を楽しむに行ったらしい。

★8月18日バイクに乗った太っちょ青年、またまた丸石谷に現れる。今日はキベリが1頭採れただけとかで、明日もがんばるぞと言っていた。

★8月25日井村氏、家族サービスとかで愛する母子3人と共に長野県松本市までドライブ。本人はついでだと言っていたが、アカジマトラの材を拾ってきたらしい。はたして本命はいかに！

★8月28日田中氏、バスに乗って別当出合までクワガタの調査。道路工事のため途中から徒歩で別当出合へ向かったところ、歩道わきのブナの倒木からオニクワガタ1♀を発見。

★8月31日丸石谷に現れた5人の男、手に手にネットは持っていたが採れたのかは不明。明倫コンビとはち巻きおじさんは分かったが、福井ナンバーに乗った2人は誰だったのだろう。

★吉村(弟)氏、大学院の入院試験(9月17日)のため、夏休みもなく慌ただしい8月をすごした。金沢へ帰ったのもたったの2日で虫どころではない様子。

★野村氏、沖縄へ遊びに行った友人から、蝶の御土産をもらった。石垣島から買って来たこの蝶は、中西式蝶額よりやや厚めの額に入っていたが、あろうことかモルフォチョウだった。

★9月1日田中氏、夏休みに九州の実家へ遊びにいく教え子に、ヒラタクワ

ガタとクマゼミの御土産を頼んだ。先生思いの教え子はしっかり言い付けを守ったおかげで、帰路の飛行機でクマゼミに鳴かれ、大変困ったらしい。

★9月2日東北の横山氏来沢。中西氏と共に井村カミキリ屋敷にて何やら密談。東北オサ掘り行脚等らしいが詳細は不明。尚この時、荘川産ツヤハダの全滅が発覚し、井村氏平身低頭。

★9月5日嵯峨井、山本の2氏、ムラサキシタバを求めて白峰方面の燈火あさり。久々のおでましというS氏はヒゲナガカミキリ、毎日通っているY氏はオニクワガタを採集。

★9月6日金子氏、シロシタバを求めて市の瀬へ。一心に捜していると、暗やみから山本氏がヌッと現れビックリ仰天。結局シロシタバは採れず、腰をさすって帰って行った。

★9月6日井村、松井、山本の3氏、白山釈迦林道にて燈火採集。風があり寒く屋まで出ていたらしいが、なんとヨコヤマヒゲナガを9頭も採ったとかで、大満足の顔。ところが松井氏独りシュラフを忘れ、寝不足の顔。

★9月7日6時まで燈火採集をやっていたI、M、Yの3氏、Yはキベリタテハに網を振り、IとMはツヤハダとオニを求めてナタヤツルを振っていた。結果はキベリ9exsと、トチの大木からオオチャイロが3exsだった。

★9月7日中西氏、四十万方面へオサトラップの設置。ヤコンがガッポリ採れたらどうしようなどと言っていた。

★オオチャイロハナの強制採卵に成功。今年羽化した中宮産2♂1♀の子だが、井村氏の所で既に15mm程度(9月7日)に成長している。氏によれば、羽化した容器にそのまま放置しておく事により、幼虫の出現が期待できたとの事。この意味わかる？

★9月11日井村氏、家族を伴ってまたまた釈迦林道へ燈火採集。ところが市の瀬から先は通行止で入れず。予定を一里野へ変更したものの、甲虫はさっぱりだったらしい。

★9月12日とっくりばち52号発行さる。竹谷氏御自慢の表紙は今回ウラナミアカシジミで、白黒なのが大変もったいない写真。内容は、竹谷宏二(ウラナミアカシジミ、輪島のハッチョウトンボ、白峰のギフチョウ)、高羽正治(石川県のながごみむし、石川県のコメツキ)、富沢章(加賀のハネナガモクメキリガ)、松井正人(石川県のカラスシジミ)と我らが会員も頑張っている。

★9月13日山本氏、釈迦林道で燈火採集。ブラックライトには何にも来ないので市の瀬の水銀燈へ出張したところ、オニクワガタ1ペアが採れたらしい。

★9月14日チョウ屋の松井氏ついにガタ屋となる。なんでも前日のオニクワガタに誘われて市の瀬までドライブしたらしい。結果はスカ!

★9月14日澤田氏、新潟方面でオサムシトラップをいざ仕掛けようとしたら、大雨が降ってきたらしい。このところたまに動こうとすると雨になるらしい。日頃の行ないの結果かも知れない。

★9月14日吉村(兄)氏、メスグロヒョウモンを求めて高爪山へ。アゲハの類がやたらと目についたが、お目当ての黒い貴夫人には会えなかったらしい。

★9月15日中藤氏、やっぱり高爪山へ。このところ明倫勢が黒い貴夫人に殺到しているが、ひょっとすると高校教師は黒い魅力に弱いのかも。

★9月15日小幡氏、撮影用にとアカタテハの幼虫を捜していたところ、偶然アカタテハの蛹に産卵中の寄生蜂を発見。まさに産卵中を激写したが、被写体が小さすぎるので、蜂の名前までは写真から判定できないらしい。

★9月15日セントルイスから届いたばかりの虫を抱えて中西氏が、採れたてのオオセンチコガネを臭わせて井村氏が、松井氏宅にやってきた。野中氏から届いた虫はガヤラ、チョウヤラ、カミキリヤラ、テントウムシで、憎らしげな手紙も交じていた。オオセンチコガネは足の先までビカビカで、ひっくりかえせば目もつぶれんばかり。井村氏が言うには「ルビーのような」であった。これらをさかなに何やら得体の知れない臭い話をワイワイやっていた。

★9月19日中西氏、2日分のモノを携えて、津幡町までトラップを仕掛けに行ったらしい。トラップ設置から1時間程監視していたら、センチコガネがノコノコ歩いてきたんだって。

★酸性紙で悩める虫屋1人。今までに作った標本のラベル総てが酸性紙で、100年後には崩れるらしい。そこでラベル総てを中性紙に書き替えると言うが。

★9月20日井村、松井の2氏、暇をつぶしに中西宅にやってきた。I氏はまたもやオオセンチを見せびらかしでしたが、今度はN氏も北海道のオオセンチで応酬、「こっちの方が綺麗だ」「イヤこっちの方が大きい」「イヤこれはきたない」等々と話は尽きなかった。

★9月21日井村、松井、中西の3氏、トラップ製造機2人を伴い、オオセンチを求めて宝達山近辺へ。ジュースやらアイスクリームをバンバン与えても、トラップ製造機はトラップを設置しなかったらしいが、自らのトラップとすでに設置されていたトラップとからオオセンチ19exsを採集したらしい。

★9月21日夜再び前記の3病人、今度は白峰方面へ燈火の見回り。この日はフェーン現象で日中の気温が35度まで上がったとかで、オニクワガタ2♂、ヒゲナガカミキリ1♂が採れたらしい。

★9月23日野村氏、新居の鉄骨骨組みがやっと出来たらしい。11月20日の完成までは、昆虫セットも倉庫に入ったままなので、それまで虫とは付き合いがないと言っていた。

★9月23日田中氏、白峰大杉谷でのんびりナメコ採り。アカアシやヒメオオクワガタはたくさんいすぎて捜す気もしないらしいが、55mm以上のヒメオオクワだけは採集すると言っていた。

★井村氏、10月より雇われの身を抜け出し、フリーの配線屋になるらしい。車もデリカバンに買い替え、そのドアには「井村神切配線」の文字があるとか。10月会合には乗って来るかもよ。

★赤い紋のある華麗なパルナシウス2種が乱れ翔ぶ魅惑のロッキー採集会に、あなたも参加しませんか。シアトルからは在米日本人、Mr. NONAKAが何から何まで御世話します。62年7月下旬出発予定ですので、今からの資金準備で十分間に合うかと思えます。果てしなく広がるロッキーの山々はきっとあなたを魅了することでしょう。

例会の記録

8月1日(金)城南管工KK2Fにて8時より開催。8月9日のカラオケ採集会と10月例会の打ち合わせを行った。10月例会はスライド大会とし、優秀作品は順次会誌掲載となった。またこの日は東北から横山氏も駆け付け、井村会長とのカミキリ対談も行なわれた。その他の話題で主なものは、オオイチ10コもとっちゃった!(吉村)、蛇谷のアサマがたくさんあるから、誰かもらって(中西)、近所の子供からクワガタおじさんとよばれる(田中)、オヒョウの上を飛ぶゼフみたいな蝶の正体は何か(竹谷)、ジャノメチョウは金沢ではめずらしい(近藤)、ホシチャバネはミヤマアブラを食べている(松井)、今から常念へいくぞ(山本)等々で、その間セントルイスへ電話したり、1匹1000円のアトラスカブトが売られたりした。参加者は井村、井沢、小幡、近藤、高平、田辺、田中、竹谷、松井、横山、吉村(兄)、山本、中西夫妻の14名でした。

とぶ	NO.59 1986年10月3日発行
編集	松井正人
発行	百万石蝶談会
事務局	金沢市大場町東871の15 松井方
	☎920-01 ☎0762-58-2727